

県連協 会報

一年間を振り返って

県連協会長 根岸 武雄



県校友会の皆さんこんにちは、皆さんにおかれましてはご健勝で各々活躍され中高年の青春を謳歌されていると存じます。昨年は元号が平成から令和になりこの日本は激動でした。台風15・19号の甚大な災害により、埼玉県も西部を中心に被害を受けました、みなさんへの被害は如何だったでしょうか。県校友会も時代の変化の波を受け続けて会員数も3700人、7連協になりました。校友会の今後の活動ですが、定年退職が延長になり入学生も減少傾向が続き、卒業後に各連協への加入数も減少し目標の社会貢献・地域密着型に黄色信号が出かかっている状況ではないでしょうか。この状況を食い止めようと皆さんのご意見・アイデアをお願いしました所、多数のご意見・アイデアいただきありがとうございます。数回の三役の討議を得まして「三役からの提案」として12月の理事会に提案いたしました。討議を行いお持ち帰りして再度皆さんのご意見をいただきました。5月の総会で次年度以降の活動方向を確認したいと思います。

一、校友会の現状・課題 ①加盟連協及び会員数の減少②新規会員の増加が見込めない。学生自治会が今年度より設立されていない（伊奈学園を除く）卒業生の校友会加入について大学側の協力が今後あまり見込めない③県連協に対する魅力が乏しい。同じ事業が続きマンネリ化して楽しさが減少している。④加盟連協の減少により事業担当のサイクルが早くなり連協との掛け持ちで役員の負担が大きい。会費を支払うだけで大多数会員が参

令和2年3月発行
第48号
彩の国いきがい大学
校友会連絡協議会
編集幹事校
春日部学園校友会
広報部

加していない。

二、県連協運営・事業見直し策として①今後も地域社会で存在感を高め活動を継続②県連協は事業体から情報交換の合議体へ転換③三大事業、広報事業を中止④理事会を情報交換の場とします。

三、2020年度は上記の基本方針の検証期間とします。三大事業は各連協の自主運営に委ねる。年会費無し、剰余金は保留する。県校友会の皆さんよろしくお願い致します。

いきいき埼玉からの寄稿

公益財団法人いきいき埼玉

いきがい支援担当

彩の国いきがい大学校友会連絡協議会会員の皆様には、日ごろ各地で社会参加活動にご尽力を賜り深く感謝申し上げます。

彩の国いきがい大学は、地域で活躍するシニアが学ぶ場として、全国の高齢者大学から注目を浴びてまいりました。その評価は、県連協会員の皆様をはじめとする卒業生の方々の日ごろの活動が築きあげたものであり、今も校友会の理念として受け継がれているものと感じています。

その彩の国いきがい大学も、令和の時代を迎え大きく見直しをするこ

ととなりました。
令和2年春から新たにスタートする「埼玉未来大学」は、いきがい大学の理念を継承しつつ、元気で活力あるシニアライフの実現と、新たな挑戦を目指すシニアへの支援にも力を入れてまいります。会員の皆様におかれましては、活力あふれる埼玉のシニアの代表として今後もご活躍いただきたいと大いに期待しております。彩の国いきがい大学校友会連絡協議会会員の皆様には、日ごろボランティア等、社会参加活動にも格別のご尽力を賜り深く感謝申し上げます。



校友会推薦文①

「百年人生元気で楽しく」
浦和連協（28期）江口みち子



私は現在92歳、健康長寿の秘訣を云われ

ても特に書くことはありません。

75才で一人取り残され途方にくれ考える事は健康第一、これしかありませんでした。先ず、いきがい大学・シニア大学で友人をつくること、そしてボランティア活動をする事、それには健康でなくてはいけない。早朝ウォーキングが頭に浮かび実行に移しました。ただ歩けばいいと云うものではないと、歩巾を取り速度をつけ1日1万歩を目標に、内臓も血管も丈夫になるとのことそれを信じて実行しました。

先ず別所沼公園デビュー、歩き始めてすぐに山の会入会を誘われ躊躇なく応じました。

始めての山歩き無我無中で歩く、景色等眺める余裕さえない。足はひきつるし、リーダーにマッサージし

て頂いたり、リュックを持って頂いたり、大変お世話を受けた事が昨日の事のように思われます。

88才の時、2泊3日の予定で乗鞍岳に登り9名中5名が登頂に成功、私もその中の1人でリーダーに「江口さん良く頑張ったね。脱帽だよ。」と云われてルンルン気分が家路についたのに、3日後背中に激痛を感じ朝自力で起き上がれなくなり、診断の結果、圧迫骨折と知らされ、寝たきりになってしまおうと云われショックでした。

しかしこんなことで負けてたまるかの一念からウォーキングも休むことなく頑張ったお陰で5ヶ月後には又登山を果たし医師をビックリさせたことを思い出します。現在でも週1回は登山を心がけています。

いきがい大学校友会のハイキングクラブに席を置き皆さまに助けられ頑張っています。別所沼のウォーキングでも永い年月歩いていますので大勢の友達に声をかけて戴き毎日を楽しんで元気で歩いています。

又、校友会仲間との地元での幸仕活動も元気の基になっています。一人暮らしでも最高に幸せです。此の幸せが少しでも永く続きます様に願っています。

校友会推薦文②

熊谷連協（24期）後藤 尚二



私達が入学した頃は、競争率が高く、2回目、3回目や3と合格さ

れた方が大半でした。60年以上別々の世界で生き抜いてきた人たちが、勉学はともかく、仲間創りを大きな目標にして入学されたのです。これはいきがい大学の使命でありました。しかし、その仲間意識は、中々生まれませんでした。ところが、卒業旅行を期に、変化が出てきました。普通に接していた人達が何か旧来の友と接しているような光景へと変化してきたのです。仲間意識が芽生え、友情から親友へ。気心が知れた仲間になってきたのです。あれから20年！会員数は少なくなりました。平均年齢85歳、でもみんな元気ですよ。総会と食事会・学習会を映画鑑賞に変更、一泊の懇親旅行。これら各事業に7〜8割の方が参加しています。不参加の方は相応の理由を知ら

せてきます。

これらの活動は、内容も大切ですが仲間に来ておしゃべりに花が咲く事が楽しみだそうです。一人ひとりがいかに豊かで充実し満たされた楽しいひと時を過ごせるか。人生最後の挑戦と思われる時期に「いきがい大学」を選択した方々の夢を実現させる為に、各期校友会は最善をつくさなければなりません。「私には、行ける場所があるから幸せです」「私の夢は、一生付き合える仲間が出来るから幸せです」こんな声も聞かれます。いきがい大学の真の目標は「全員の生きがいを高める事」の一助となることではないでしょうか。会の運営を難しく考えないで、上下を考えず、皆で考えて運営していけば良いのです。私の場合は各責任者（総務・企画・会計）の人材に恵まれ、そのうえに会員みんなにも恵まれ助けられ、お蔭様で、充実した毎日を通しています。そんな私の師はこの一句です。

友がみな

紙より偉く

見える日よ

（塚本）

校友会推薦文 ③

川越市交通安全運動に

参加して十七年

川越連協（26期会長） 小森通夫



平成27年度 交通安全功労者表彰式

ローガンが多くなりました。特に高齢者の高速道路の逆走や信号無視、アクセルとブレー

私たち川越学園26期校友会は平成14年に川越市交通安全運動街頭キャンペーンに参加して今年で17年目を迎えました。交通安全運動は川越市と川越警察署共催によるもので季節ごとに年4回以上実施しますが、私たちは例え1名でも毎回参加して交通安全のPR活動を続けております。当初は夜間の反射材着用やシートベルト着用早目のライト点灯などを呼びかけましたが、最近の傾向としては高齢者の運転と若年層のスマホ操作運転に注意喚起するス

キの踏み間違いなど大きな社会問題となっておりますが、事故を無くすためには日常的に飽くなき活動していくことが肝要と思います。

写真は知事公館にて当時の上田知事と筆者は中列左より4番目）
この地道な活動が認められ平成



23年6月に26期校友会に川越警察署長より感謝状を頂きました。その後、平成25年9月埼玉県警

察本部長より感謝状を頂きました。更に平成28年2月に埼玉県知事より知事公館において交通安全功労者として表彰されました。



今後は、高齢運転者の積極的な免許返納なども取り上げるのではないかと思います。

校友会推薦文 ④

ホームページを担当して

出会った素敵なこと

県連協（27期） 相馬広志

私たちが蔵27期校友会はホームページを立ち上げて3年になります。総務、企画、広報の各部や班、クラブから活動案内や報告を掲載してもらい、情報を共有するものですが、「みんなの広場」ページを設けて個々人の活動や感想などを自由に発表してもらっています。

その中で2班の伊藤勉さんは定期的にエッセーを寄せられ、もう60本にも及びます。取り上げられるジャンルは幅広く、花々など四季の風物から文学、映画そして音楽、更に芸能やスポーツなどに至るまで幅広く、その博覧強記ぶりには驚かされます。多くの知識や見識だけでなく、勇気をもいただいたようにも思えます。

例えば、『いのちの桜』と題したエッセーでは（前略）人はみなわが心に桜を持っている。その桜に自分の思いを染めつけて、人は生きる。命ある限り、桜を愛して生き抜きたい。



それは人生そのものを愛してやまないということではないだろうか。また、『初富士に想う』では「富士山を見てみると、どういいうわけか、人生というものをそっくりそのまま肯定せずにはいられなくなる老いれば老いたでいいではないか。（中略）川の水が流れて行くように人間も生々流転の相を繰り返して流れ果てて行くのだ」。更に、『老春賦』では「老いるのもまんざら悪いことばかりではないという気がする。（中略）年ごとに咲く花に心が向かい、空の青さや緑の美しさが目に沁みることがようになった。今、若い盛りよりは、生きていくことの味わいは遙かに深くなっている」と実感するのである」等々。

いただいた原稿をホームページに位置や大きさを決めて、レイアウトしていく作業もまた楽しいものです。

校友会推薦文 ⑤

イナ・ヴォイスの活動に参加して
伊奈連協（専攻課程・3期火）

小金井 明

イナ・ヴォイスの運営委員になって間もなく3年になる。広報部員として伊奈ボランティアニュースの発行、HP等の広報活動に携わってきた。イナ・ヴォイスの活動とは？



ボランティアを必要とする施設にボランティア団体を紹介するのが主な事業である。

イナ・ヴォイスの活動の中で、最大のイベントがボランティア活動発表会の開催である。11月9日開催のボランティア活動発表会は10回目という節目の発表会となった。初めての試みとして在校生や一般来場者が参加しやすいように土曜日開催とした。出演者も含め最後まで観客席に残っていて欲しいとの思いから、演技終了後に記念

抽選会を開催した。施設訪問時に来場をお願いしていたところ、30名を超える施設利用者が観客として来場してくれた。施設関係者の来場はイナ・ヴォイスの最も望むところであり、大きな成果といえる。

2つ目の活動は年間を通じ、特に9月、10月を中心に老人介護施設等200か所以上訪問し、ボランティア団体の紹介をおこなっている。登録しているボランティア団体に活動場所を提供することである。3つ目はイナ・ヴォイスの活動を継続するためにも新たなボランティア団体を立ち上げていく必要がある。これには在校生のクラブ活動を活発にし、その延長線上にボランティア活動団体の立ち上げに繋げていくものである。在校生が減少し、運営委員の人数も減少する中で、校友会や地域別OB会とも協力が必要となろう。

12月18日大宮ソニックスティでの公開学習にて、藤森代表が県下9校のいきがい大学の学生等に対してイナ・ヴォイスの活動事例を説明する機会をいただいた。イナ・ヴォイスって何をやるんですか？冒頭の質問に答える絶好の機会でもあり、活動に携わる運営委員にとっても喜ばしいことである。

校友会推薦文 ⑥

春日部連協（24期）木村栄作

24期交友会は、卒業広報作成から「24のきづな会」と命名され、105名のメンバーで構成されています。どの企画もおおくの方々が参加し、新しい人生を、ともに大いに楽しんでいます。

6月 第1回学習会



小谷みどり氏「楽しく向き合う終活」約80名の会員が参加、終活について、有意義なお話をしただき、大変参考になりました。

その後お話しの中からヒントを得て同写真クラブの協力で遺影の撮影会を企画しましたところ、33名の方々の参加を得て実施しまして大変好評を得ました。

7月 ポウリング大会
武里駅西口のニューパークレーン男女40名の参加者で久しぶりに

ポウリングを楽しみました。その後近くのレストランに場所を変え表彰式と懇親会を開催し、楽しい1日です。すこすこことができました。

9月 第2回学習会小林祥次郎氏「言葉の楽しさ、面白さに遊ぶ」普段気づかない言葉の楽しさを学ぶことができました。

10月 親睦旅行「河口湖紅葉祭り」当初の企画では、ミステリーツアーとして、行き先をみんなで当てるといふ企画でしたが、あいにく台風の影響で延期になり、河口湖への旅行となりました。当日朝方の天気はあまりよくなかったのですが、河口湖到着時には、晴天となり、間近に見る美しい富士山に皆さん感動しておりました。

11月 音楽会「みんなで歌おう」春日部コミュニティセンター 歌声喫茶の雰囲気プロのアコーディオン奏者に合わせて皆で合唱しました。唱歌、ロシア民謡、昭和の懐メロ等を大合唱しました。

今後の予定
令和2年2月新春落語会を開催
春日部近郊在住の落語家を招き新春をお笑いでスタートします。今後も団結心、会員の健康が続く限り活動を続けて行こうと思います

校友会推薦文 ⑦

民謡と尺八で地域に貢献

入間連協 足立 弘



寺本さんは、6期として卒業後、

校友会の役員を続けると共に、校友会の尺八&民謡クラブ



を主宰して、全く未経験だった部員を文化祭、芸能祭、入間市万燈祭、デイサービス・老健施設などで演奏できると育ってきました。



OB講師を務め、地元民謡や尺八

クラブは、入間市社協に団体登録し、ボランティア活動をしています。また、最近3年間は、和光・川越学園で

の紹介、民謡が庶民の生活に果たしてきた役割などについて実演と講義



をされました。

いきがい大学以外でも、狭山市・入間市の民謡団体の役員を始め、発表会で自身が発表するだけではなく、地域の民謡教室の伴奏も担当し、失われつつある伝統芸能の振興に努めておられます。



CATV番組の画面

PO法人狭山歴史ガイドの会」に所属して、狭山市の遺跡や文化財の紹介・ガイドをしています。狭山市のさやまケーブルテレビ

で、郷土を紹介する番組「イーム」にも、2017年から1年以上に亘り案内役として出演しています。この他、地元自治会の役員や氏神様の氏子総代、戦没者遺族会のサポートなど、幅広くコミュニティ活動に活躍しています。

社会参加活動報告 ①

混声合唱団「レッツ・スイング」

浦和連協 佐藤 和平



「レッツ・スイング」は、2000年5月に「いきがい大学浦和学園コーラス同好会」として誕生しました。団員は、いきがい大学の卒業生が中心ですが、現在では一般の方々も加わり、男女合計31名を擁する混声合唱団です。「歌が好き、歌うことは健康に良さそう」というだけで加入し、ここで初めて合唱を経験した人が殆どです。私連ですが、明るく熱心な魚水愛子先生のご指導の甲斐あって、さまざまなおもろさ、みんなが歌うことの楽しさ、そして健康の有難さを味わっています。これまで、7周年や10周年といった記念コンサ

ートを開催してきましたが、最近の年間定例行事として、いきがい大学関連では、浦和連協主催の「クラブ活動交流会」及び県連協主催の「芸能祭」、また、活動拠点である公民館主催の「文化祭」更には、さいたま市合唱浦和の会主催の「春の合唱祭」と「秋の合唱のつどい」といった場で練習の成果を披露しています。私連は今年結成20年という節目の年を迎えました。この間、合唱を通じて多くの素晴らしい方々と出会い、そして暖かいご支援を賜りました。そのことに感謝を込めて、4月26日(日)14時開演、浦和コミュニティセンター、多目的ホール(浦和駅徒歩1分)で記念コンサートを開催する運びとなりました。今回は、結成以来これまで長く交流を重ねて参りました、浦和連協との共同開催です。ゲストによるバイオリン演奏やピアノ演奏もある楽しいステージをお届けしたいと思っております。是非多くのご来場をお待ちしております。団員の平均年齢も80歳と高くなってきましたが、合唱を愛する気持ちはいささかも衰えていません。これからも頑張って楽しく活動を続けて参ります。また団員は随時募集中です。

社会参加活動報告②

本を通じての出会い

熊谷連協（25期）森義雄

私が所属する「深谷市図書館ボランティアの会」は、開かれた市政の推進と市民参加の一環として、平成12年に深谷市が募集した図書館ボランティア



ランティアに応募し研修した市民が、平成13年4月に設立しました。現在の会員数は15名、（男性2名、

女性13名）です。

主な活動は、毎月3回、約1時間半行う深谷図書館での書架整理です。図書には1冊毎に管理番号が付されていますが、その番号順に図書を書架に並べる作業です。

その他には、各地の図書館を訪ねて、利用者へのサービスや設備などで地元図書館の参考になることはないか見学し、時には提案する図書館見学会を毎年行っています。「長椅子を

書台付き一人用椅子に」「本を探しづらいので書架に小見出しを」「図書宅配サービス導入」「ホームページ開設」等々の要望を図書館に提出して実施して頂きました。最近では、鶴ヶ島図書館を見学した時、布絵本作りの展示を行っていました。そこで体験学習した会員が勉強を重ね、平成28年には、教冊、深谷図書館に寄贈するまでになりました。

また、深谷市社会福祉協議会に団体登録しているので、そのホームページを見た中学生が、夏休みに体験ボランティアとして参加されたり、NPO法人の依頼で、若者の自立支援活動の一助として、3年前から月1回書架整理を共に行っています。



毎年10月に行われる赤い羽根街頭募金では、会員が市民に協力を呼び掛けている。

活動は地味ですが、きれいに整理された書架にちよっぴり満足し、布絵本を手にする母子の姿を想像し、そして中学生や若者まで、本を通じていろいろな世代との出会いに楽しさと喜びを感じながら活動しております。

社会参加活動報告③

「川越水川神社の清掃」

川越連協（40期）加来政純

川越連協の34期と40期生30数名が、6月に合同で川越水川神社の清掃活動を行いました。

川越祭りは水川神社例大祭の付祭りとして行われています。川越水川神社の初詣参拝者数は県内6位の20万人が参拝され、縁結びの神様として広く親しまれています。日本最大の木造鳥居を抜けると拝殿があり、普段入れない拝殿奥の清掃を行いました。

清掃に入る前に若い巫女さんより、水川神社と本殿の説明を受けました。嘉永2年に竣工された本殿の腰廻りの羽目には、10町の山車の人形を主題とした彫り物が廻らされ、名工源蔵の手によるものです。川越祭りの山車に乗る人形をモチーフにしていて、古く薄黒くなっていますが見事な彫り物でした。

清掃は神社関係者しか入れない、本殿の周りを中心に落ち葉拾いをし、90リットル入りゴミ袋に10袋ほど集めました。神社自体があまり広

くなく、時期的にも落ち葉が少ないので、比較的早く終わりました。

その後、拝殿周辺通路の銅製の吊灯籠30個ほどを、雑巾で清掃しましたが、破損個所が多く予備の灯籠も無く緊張しながらの清掃でした。

ボランティア終了後参加者は近くのレストランに移動し、初めて見た本殿羽目の素晴らしい彫刻の感想を述べあいながら、おいしい昼食となりました。



社会参加活動報告④

わらびオカリナーズの活動

康連協（27期）

27期のクラブ活動で始まった「わらびオカリナーズ」は卒業3年目のオカリナクラブです。最初は初めてオカリナを持つ部員も多く大変でしたが、部内の経験者に教えていただき、練習を重ねて何とか吹けるようになりました。卒業3年目ですが、部員9人で継続しています。月2回の練習を続ける中、外部では演芸大会の出演にとどまっておりましたが、「ポランテアをやってみよう！」ということになりました。当初は15分程度、数曲で緊張の中、始めましたが、だんだん経験を積んで上がることもなくできるようになった気がします。今は約1時間を、まず第1部は「オカリナのメロディ」を主体に聞いていただき、第2部は打楽器や簡単な体操も交えての「バラエティ」、第3部は「懐かしい歌と一緒に歌いましょう」、という内容で約20曲をやっています。オカリナの楽器も標準のアルトに加えて高い音のソプラノ、低い音のベースの3部演

奏をやり、さらに季節に合わせて曲を入れ替えたり、また、手話も入れたりと練習が大変です。訪問先は高齢者施設が主ですが、大きな声で一緒に歌っていただき、施設の係の方も盛り上げてくれて、かえってこちらが元気をもらおう、という時間を過ごしています。中には涙を流していらっしゃる方もあり、この時間はとてもやりがいを感じるひと時です。今年はこのようなポランテアを6回やりました。普段の練習に加えてポランテアを入れると目標が出ていいねーと話しています。今後とも皆で練習を重ね、続けていきたいと思っております。（千綿敏充 記）



社会参加活動報告⑤

「ふれあい音楽健康塾」

「みんなで大きな声で、歌って、笑って、体を動かしましょう！」

伊奈連協

10月22日「伊奈連協ふれあい音楽健康塾」を県民活動総合センター小ホールで開催しました。



昨年同様参加協力金をいただく有料イベントとしました。また各期校友会との協賛開催とし、各期で参加者募集に奔走し、会場がほぼ満席となる240名程の皆様にご参加いただきました。第1部『アコーデオオン歌声 音楽塾』…アコーデオオン奏者 三好創

先生の楽しいトークとジョークを交えた親しみのある伴奏に合わせ、参加者みんなで大きな声で、楽しく笑顔で歌い、「心」も「体」も元気になりました。アンコールでシヤンソンの名曲をたっぷり演奏さ

れ感動の中、感謝しながら終演しました。



第2部『元気アップのアクティビティー』…（公財）日本レクリエーション協会公認インストラクター 女屋静子先生 「歌トレ」「脳トレ」「笑トレ」健康寿命のお手伝い（女屋先生の目的）自分らしく生きる、自立させて生涯を暮らせる支えとなるように、リズムに合わせて、楽しく体を動かして「心」も「体」もリフレッシュする。音楽に合わせて歌に託し、目的に合わせて振付がされており参加者の皆さんと意気投合して「あつという間の時間」でした。

最後に実行委員30名程が登場して、都はるみの「好きになった人」の歌に合わせ、女屋先生の振付で踊り、大汗とともにバンダナを何回も振りお別れをしました。

これからも、会員はじめ在校生、卒業生および地域のシニアの皆さん方等に、楽しんでもらうようなイベントを実施していきたいと思えます。（専攻課程・第3期（火）校友会 乾 記）

社会参加活動報告⑥

影絵を通してボランティアを学ぶ

春日部連協（21期 専攻2期）

ボランティア集団「花」矢崎兼久

『影絵』とはどんなものと聞くと多くの方がこたつ、白熱電球、障子、手で作った動物の影、それらを介して楽しむ親子の姿を思い出して答えてくれる。



私たちの描いている『影絵』それも切り絵の影絵はどんなものなのか。昔のそれとたいして変わってはいない、ではどこを変えているのか。①光源を強くした(OHPの光源の活用)②スクリーンを大きくした(シルクスクリーンの使用)③絵の動きがきれい(絵の映し方の工夫)④切り絵がきれい(切り絵の工夫、色付け)⑤感情を映しこむために声優、擬音の工夫(読み込み、練習などである。

その成果なのか発表する毎に上手になり、多くの方々へ感銘を与えている(自我



自賛)。団、結成以来3年発表回数30回あり。いずれもボランティアとしての活動である。訪問依頼場所も、老人

介護施設、障害者介護施設、保育園、他多種である。ボランティアとしての活動を行っているが、私達の方がボランティアされている事の方が多いように感じます。



ではどんな所で、どのような感じなのか。障害者施設で自分達の好きな歌を感謝の気持ちを、心を込めて歌う、それがすごい。飛び跳ねること、寝転がること、その他いろいろな表現方法でいずれも『感謝』の表現なのだろう。一緒に歌っていて感激のあまり声が上がってしまった。保育園でも同様に影絵『花さき山』を見て頂いた後お礼の歌を聞かせて頂いた。その心のこもった歌声の素晴らしさ、歌う態度の良さ等にはほとんどの団員が目頭を押さえていた。今までの活動を通して学んだボランティアはさせて頂くものであると言う事である。今後とも団の団結心、団員の健康が続くこの限り活動を続けて行こうと思えます。

社会参加活動報告⑦

社会貢献活動

入間連協

毎年、文化祭開催時に、深谷市にあります盲人老人施設への寄付を募っております。

寄付の内容は、書き損じのハガキ、使用済みの切手、テレホンカードなどです。今年も11月27日の入間連協主催の、文化祭「創作展示会」にて来場者の皆様に寄付を募りましたところ沢山の皆様から、寄付を頂きました。今年で4年目となりますが、今後も毎年寄付を募る予定です。

地域ボランティア活動

入間連協(7期)

紹介するのは、入間学園7期校友会、通称アロハレインボークラブです。アロハレインボークラブは、7期7班の活動として発足しましたが、平成27年度卒業してからクラブとなりました。男女10名で、フラダンスを踊ったのが始まりです。

当初は踊りを見ていただく場を模索していました。そこで、狭山市内の老人ホーム施設に伺い、趣旨を説明したところ、施設のご担当者様か

ら、何時からでも来てくださいますとのご承認を頂きました。

当初は、単独のボランティア活動でしたが、訪問先での出演時間は1時間枠との事、演目がフラダンスだけですと10分ほどで終了してしまいます。そこで、同じ期のカラオケクラブにも



声をかけて一緒に訪問するようになりなりました。

初めて訪問したところは、自分たちの発表として考えておりましたが、訪問を重ねる毎に踊り、歌も上手になり施設の利用者さんより、拍手喝采を頂くようになりました。

今では、班員と部員の喜びと生きがいになっております。

活動記録

平成27年	4回
平成28年	5回
平成29年	6回
平成30年	6回
平成31年、令和元年	5回

(七期会長 中村光則)

ウクレレクラブ・リリアン

県連協 森田益行



私たちのクラブは蔵学園を卒業したメンバーで作ったウクレレクラブの一つで、平成14年4月に創立され、現在会員は27名、月3回川口駅前のリリアンスタジオでレッスンを続けています。

す。私たちの社会参加活動ですが、川口市内を中心に福祉施設でのボランティア演奏を現在まで157回続けており、昨年11月には埼玉県社会福祉大会で上田知事から会長賞を受賞することができました。老人ホームやデイサービスセンターなどの利用者の皆様との交流を楽しみ、やりがいやいきがいを感じながら活動を続けています。

また、お祭りや発表会などへの出演は55回になり、ハワイにも4回行き、「まつりインハワイ」の舞台にも3回出演いたしました。

社会参加活動で心がけていることは、参加されている皆様楽しんでいただける演奏をすること、そのために私たちが楽しいと思える演奏をし、フラや踊りなど動きのあるものを入れながら、参加されている皆様との交流を図ることに努めています。

今回、大宮ソニックシティ大ホールという素晴らしい舞台で「フラガール 虹を」「ああ上野駅」「ウルパラクア」「愛するハワイ」「アロハオエ」の5曲を演奏させていただきました。緊張感一杯の出演でしたが、日頃の練習成果を各メンバーが相応に発揮して楽しく演奏することができました。



この素晴らしい経験を活かし、これからも社会参加活動に一層積極的に取り組み、参加者の皆様との交流を楽しみながら、ワクワク感を感じる活動を続けていこうと考えています。こういう機会を与えて下さいました公益財団法人いきいき埼玉の皆様に感謝申し上げます。

また、お祭りや発表会などへの出演は55回になり、ハワイにも4回行き、「まつりインハワイ」の舞台にも3回出演いたしました。

オーバースーパー

カントリーリーダンスクラブ

活動レポート

川越連協（42期） 多賀 守

カウボーイ達の楽しみは酒場でのバーボンとカントリーダンスミュージックだ。アメリカ生まれのカントリーダンスは今や世界レベルの人気ダンス。欧米はもちろん中国、韓国でも人気上昇中。

昨年、校友会でカントリーダンスを紹介したところ大勢の校友が集まった。皆が初体験のカントリーダンス。人間味あふれる快いリズムに乗ってからだ全体でリズムをとりステップを踏む。笑顔と笑い声の絶えないクラブとなった。そしてコミュニケーションを広げるきっかけ作りとして、価値ある活動になったのではないだろうか。

そのせいでしよう。ステップは軽快さを増し新しい曲にどんどん挑戦、発表の場も学園祭、クリスマスパーティー、お台場海浜公園、森林公園、公開学習事例発表、伊奈学園一芸会、MIXUP JOYFUL PARTY・・と発表が続いた。

なかでも、大宮ソニックシティの

事例発表会！超デカイ舞台！2000名を超えたお客への演舞だ。「生涯忘れられないステージだぞ！」笑顔で、楽しく、愉快に踊ろう、を合言葉に全員が演じた。大きな拍手が聞こえた。今でも、拍手の波と達成感がしつかり残っている。



県連協事業報告 いきがい大学第1回公開学習

公開学習事例発表

入間学園（2期）

入間連協最年長の入間2期校友会は、スローガン「ともに学び・輝け」を合言葉に、この10年間校友会活動を続けてきました。いきがい大学の目標である「仲間づくり」と「社会貢献活動」の事例として、公開学習の場において県下のいきがい大学の



皆さんに発表する機会を与えていただきまし

た。ポランティアグループ「和気あいあい」結成から丸6年、民舞に秀でた仲間の指導で、月2回の踊りの練習を続け、入間市・狭山市・所沢市内のデイサービスを訪

ました。最初に女性14名が艶やかな

「おてもやん」を踊り、フィナーレでは男性8名も加わり全員で、まだまだ若いまだ若い10年経ってもまだ若い「長生きサンバ」を、ステージいっぱい踊りました。今年度で、校友会活動10周年を迎える記念に、いきがい大学で出会った素晴らしい仲間とのこの10年に感謝を込めて、100枚以上の校友会活動の写真を取り込み、パワーポイント作品「あり



がとう仲間よ」を作り、詩の朗読及びスクリーンの映像に合わせてギターで歌い上げた。『♪ありがとうこの10年間できてくれて、心も躍る校友会の活動でした。どんなに歳を重ねても私達は同級生。決して変らない絆で結ばれている仲間よ。仲間よいつもでも♪』当日は、大舞台で緊張しながらも会場の皆様から手拍子と笑いも頂き、まさに皆が「ともに輝いた」素晴らしい1日となりました。入間2期校友会はこれから先も「未来に向かって」活動をさらに推進していきます。（2期 山田）

社交ダンスの集い

「社交ダンスの集い」報告

県連協

恒例の「社交ダンスの集い」は台風18号の影響が心配されたが、令和元年10月4日、蓮田市体育館パルシール会場で根岸武雄県連協会長の主催者挨拶、内野秋夫いきいき埼玉いきがい支援部長祝辞を頂き、予定通り183名の参加者で開催出来た。

ダンスの本番はラジオ体操でウォームアップ後、フリーダンス①から始まりみんな楽しく何曲もステップを踏む。フォーメーションダンスも音響に乱れがなく順調だ。リハーサルでのトラブルは克服されている。ミキシングもよかった。最初良ければすべてよし。フォーメーションダンスをオミットした参加団体もトリアルではいきいき踊っていた。今回はこの種目が充実していた。皆さん、1日お疲れさまでした。

閉会式では笠茂男副会長企画部長の講評、中里康夫副実行委員長閉会挨拶そして現状復旧の後片付けが概ね済んだ時は事故怪我もなく無事に終了したことに、ホッとしました。というのは、開会式の挨拶で、私は会場での留意事項はプログラムに

記しているのを目を通しておくようにとだけ述べ、殊更に笑顔を絶やさず「明るく、楽しく、元氣よく」振舞ってほしい、笑顔が大切と繰り返した。魔のトラブルも寄り付く隙も雰囲気もなかったと思いたい。

今年の実行委員会の幹事校は輪番制により蔵・春日部各連協が担い、実施計画書・プログラムの作成等を春日部連協、渉外・調整総括等を蔵連協が受け持ち計画を推進しました。そして、9月18日の下見実行委員会で、実地検分及び役割分担等の打ち合わせを重ね、全員の意思統一が図られました。

当日の役員席・観覧席や連協旗の設置、他方CDの音響設備・マイクのテスト等の会場作りはスムーズに進んだ。これも役割ごとの実行委員の事前準備とご努力の賜物です。

参加者の減少は3年前、300人台を割ってから毎年減り続け今年200人を下回った。いきがい大学の入学者及び校友会員いずれも先細る現況の中で高齢化や多様化も進む。

今後はクラブ加入・準会員制の歯止め対策や行事の中規模化の対応策そして寛容と度量の精神と考えます。

（実行委員長玉置貞明）

グラウンド・ゴルフ交歓大会

令和元年度（第21回）県連協グラウンド・ゴルフ交歓大会は、今年担当の熊谷連協だけの実行委員会方式に変わり、9月16日にくまがやドームに下見見学



に来て頂き、綿密な打合せを行いました。大会要項説明・運営準備を進めてきました。

連協参加減の厳しい数字を、更に各連協の協力で

150名まで増員し、10月15日「くまがやドーム」にて交歓大会を迎えました次第です。大会当日、開会式は9時半に開始し、根岸大会会長挨拶、富岡熊谷市長・田辺財団理事の来賓挨拶を頂き、



始球式は前記3人が打球していただきました。

10時からの競技はAコート・Bコートを昼食を挟んで周り、32コースを日頃鍛えた腕で最小打数を競いました。成績は、入賞者10名中熊谷連協



が9名、春日部連協1名（5位）で、ホールインワン（指定ホール）は12名、ラッキー賞は抽選で22名に贈られました。

今大会が無事成功裡に終了しました事は関係者全員の団結と優しさの積み重ねだと思えます。ホントユニアリガトウゴザイマシタグラウンド・ゴルフ実行委員長（熊谷連協 鈴木栄次）

第八回 芸能祭

新型コロナウイルス感染予防のため「第八回 芸能祭」は中止

本年度芸能祭は、令和2年2月26日川越市立やまぶき会館に於いて開催の予定で準備が進められプログラムも完成しておりましたが、令和元年12月中国武漢で発生した新型コロナウイルスが、日本でも各地で感染拡大している折から各種イベントが中止となっています。つきましては、感染予防のため、「第八回芸能祭」も中止が決定致しました。出場予定チームの皆さんにとっては誠に残念な結果となってしまいました。がここに演目を紹介致します。

浦和連協

- ・ ソシアルダンス（17）
- ・ 「ルンバ・タンゴ」
- ・ 混成合唱（33）
- ・ 「知床旅情、遙かな友に、荒城の月」《レッツスイング》

熊谷連協

- ・ ハーモニカ演奏（11）「浜千鳥、浜辺の歌、坊がつける賛歌」
- ・ 演劇（17）「大岡越前迷裁き」
- ・ ノースフルート（鼻笛）（10）
- ・ 「おぼろ月夜、ふるさと他」
- ・ 民謡（10）直実ぶし、正調串本節

川越連協

- ・ コーラス（29）「アロハオエ他」
- ・ 男と女の歌物語（19）「高校三年生、恋の季節、瀬戸の花嫁他」
- ・ 曲芸（14）「南京玉すだれ」
- ・ カントリーダンス（22）「Live on Love Blame The Yosa Nova 他」
- ・ 藤連協
- ・ 踊り（26）「蔵音頭、NHK2020応援歌パブリカ」
- ・ ウクレレ演奏（72）「皆の衆、涙そうそう、バリバリの浜辺」
- ・ 寸劇（39）「オレオレ詐欺に負けないように」
- ・ 日本むかし話（45）「新・花咲か爺さん、につぼん花咲か音頭」

伊奈連協

- ・ コーラス（71）「昂、大地賛頌」
- ・ レクリエーションダンス（8）
- ・ 「365日の紙飛行機、愛のルンバ」
- ・ 演舞（23）「よさこいソーラン」
- ・ ソシアルダンス（8）
- ・ 「ルンバ・ブルース・ワルツ」
- ・ 春日部連協
- ・ 曲芸（12）「南京玉すだれ」
- ・ オカリナ演奏（11）「旅愁、家路、竹田の子守唄、瀬戸の花嫁他」
- ・ 踊り（12）「新民謡重忠節」
- ・ 影絵（10）「ふき」
- ・ 《ポランテア集団「花」》
- ・ （川越連協 松村昌男）

県連協令和2年理事会報告

県連協改革案2月理事会で可決
 「交流事業に転換する県連協」

多くの会員に楽しさを！

2月14日理事会で県連協活動の改革を推し進める、「三役からの提案」が全会一致で承認され、事業転換に向け一歩踏み出すことになりました。

現在、県連協は急激な会員減少が起こっています。8000人以上いた会員がここ数年で4000人を割り、10連協あった連協が7連協に減少するという「存続の危機」を迎えるまでに至っています。そこで根岸会長指揮の元、会員減少に歯止めを掛けるため各連協で改革案を検討してきました。その内容をまとめたのが「三役からの提案」です。今まで、いきがい大学卒業生が長年に亘って誇りをもって取り組んできた活動を、根幹から変えるというものです。改革なくして継続の道はあり得ないという思いから、事業内容と運営体制の骨格を見直すものです。

県連協は7つの地区連協で構成されています。その地区連協の活動が楽しくなければ会員は校友会を去って行きます。また、県連協での活動のメリットが運営の負担より小さ

ければ各連協は県連協を去って行きます。

そこで現在の取り組み状況を検証すると、県連協事業に参加するため、各連協の会員は日々研鑽し、自分たちの腕を磨いています。そのこと自体は会員の達成感や充実感が醸成されるため素晴らしいことですが、半面、事業に参加できるのは極一部の会員に過ぎません。大半の会員は会費を納めるだけで、事業に参加できず、楽しさを享受できません。

また、県連協を運営する理事に就任すると、普段経験の少ない行事を企画運営し、関りの少ない人達に協力を仰ぐこととなり、計り知れない負担がかかります。以上から「より多くの校友会会員が楽しさを実感できること」及び「極力負担の少ない運営にすること」という改革の狙いを立てました。

この二つの狙いを実現するため、令和2年度から現在取り組んでいる三大事業（広報含む）を取り止め、「各連協の交流を促進する事業内容」に、また事業を推進する運営体制は行事の企画運営から「情報交換」に転換することにしました。

転換後のイメージ

① 各連協は夫々特徴ある活動に取

り組んでいます。その活動内容を情報交換することによって連協同士が身近な存在となり、可能なら、当該活動を水平展開する。

② 各連協は講演会、音楽会、展示会、文化祭などのイベントを企画運営しています。その内容を情報交換して他連協の会員が参加、見学できるようにする。

③ 理事会で情報交換した、各連協のイベント等開催状況や各連協の交流状況などについて、県連協から各連協へ定期的に情報発信を行っていきます。

尚、現行の三大事業及び広報事業は次のように移行されます。「グラウンド・ゴルフ交歓大会」及び「社交ダンスの集い」は各連協の当該クラブに企画運営を委ねる。芸能祭は右記②項に移行する。広報活動は右記③項に移行する。

県連協広報部長（春日部連協）

山口英治

県連協会報第48号 編集後記

2020年、令和2年、東京オリンピックの年を迎えました。今年のは年初から中東でのイランとアメリカの対立の衝撃的な事件があったり、最終決着できそうにない米中貿易戦

争の行方もきになります。そんな中県連協会報の編集がスタートいたしました。不本意ながらも、広報部長に任命されましたので、とても気が重い状況でした。しかしながらなんとかなるさ、と相変わらずのノリで天気にかまえておりましたところ今回の編集にあたり、当連協の広報部の有志が、この大変な作業を引き受けてくださいました。本当にありがた心から感謝しております。

今回の編集にあたり、本当に作成できるのかなと杞憂しておりましたが春日部連協（今回の広報担当）の山口会長の綿密なスケジュール作成、管理により比較的スムーズに進捗できたと感謝しております。また、この編集を実際にやっていた春日部連協広報部の鹿沼さんとお手伝いいただいた佐藤さん、本当にありがとうございました。皆さんのお陰で完成にこぎつけました。今回の作成方針は、前年度を踏襲したものではありませんが、本年度は、各連協でも議論されたと思われませんが、会員減少の対策についての記事も多少載せております。

令和2年3月31日県連協会報48号
 （編集担当 春日部連協広報部）

